

平成 23 年度文部科学省大学生の就業力育成支援事業
「就業力向上を目指す社会貢献支援プログラム」
～初年次からリカレント教育まで質の高い幅広い職業人養成を行う～

社会貢献フォーラム I・II
社会貢献を通じて、『将来』を考える

報告書

平成 24 年 3 月
公立大学法人 福岡県立大学

目 次

| | |
|---|----|
| 社会貢献フォーラム I・II の開催にあたって | 1 |
| 活動報告 | |
| 1. 社会貢献論演習 | |
| (1) 街灯増設の援助 | 4 |
| (2) 炭 SAKU 兵衛 ～マップづくり～ | 6 |
| (3) オリジナルキャラクター作成にあたって | 9 |
| (4) 伊田駅の待合室について | 12 |
| 2. チームひまわり（東日本大震災関連ボランティアチーム） 被災地支援に向けての取り組みと今後の活動について | 16 |
| 3. 海外語学実習紹介 | |
| (1) 実習プログラムの概要 | 20 |
| (2) 参加学生によるスピーチ | 26 |
| 4. プレ・インターンシップ活動報告 | |
| (1) プレ・インターンシップの概要紹介 | 29 |
| (2) プレ・インターンシップを通して産業界を体験した 学生によるスピーチ | 36 |
| 5. ボランティアサークル活動報告 | |
| (1) つくしんぼ | 42 |
| (2) けんけつっち | 46 |
| 講評 | 50 |
| 寄せられた感想 | 52 |
| 社会貢献フォーラム I・II の活動の流れ | 54 |

社会貢献フォーラム I・IIの開催にあたって

福岡県立大学理事長・学長
名和田 新



理事長・学長の名和田です。私は、平成 18 年に県立大学に法人化と同時に赴任しました。そして、6 年皆さんと一緒に勉強させていただきました。この 3 月に退任することになりました。今日は、この 6 年を振り返ってみて、思ったことを少し話してみたいと思います。

理事長・学長というのは、教員ではないので授業をする必要はなかったのですが、人間社会学部と看護学部、大学院を含めて授業を行いました。それは、どのような資質を持った学生がいるかということを知りたかったからです。1 年間に 90 分の授業を 65 回行いました。私は、非常に素直で真面目な学生が多いことを知り、この大学の学生はすごいなと思いました。これは絶対に育てないといけない、育てられるという確信を持ちました。そこで、どう進めていくかを小松教授、森山教授と学長室で何度も話し合いました。

特にこの大学は教育を中心にする大学ですから、皆さんにいい教育をするプログラムができないかと考えました。そのために文部科学省の教育研究費を獲得して進めることを考えました。学生が大学に対して何を期待しているかをまず知って、この大学の学生の強みと弱みは何かを把握しようと思いました。そこで、小松教授が先輩たちにアンケートを取りました。大学入学時 90%以上の学生が「人間的に成長したい」、「生きがいのある人生を送りたい」、「本当に満足できる仕事に就きたい」という強い希望を持っていました。ところが、2年3年になるに従って80%、70%に下がってくるという結果がでました。入学した時にはこういった高い志を持っているのに、2年3年になるとだんだん下がってくるのはなぜか。これらの強みを卒業するまで維持してい

かなければならないと考えました。そこで、皆さんの弱点は何かということを知るために、小松教授が就業力育成支援事業でベネッセに委託したアンケートのデータを基に集計した結果によると、「創造的思考力が少ない」、「自己理解力が低い」、「コミュニケーション能力を持っている人が少ない」、そしてもう一つ弱いのは「ストレス耐性力」。これらが先ほどの強みを引っ張っているということがわかりました。例えば、看護学部の学生は大半が看護師になりますが、就職すると1年目に10%辞めてしまう。人間社会学部では3年で30%。これを克服してあげなければなりません。

これらの弱みを克服するために、この就業力育成支援事業を始めたわけです。創造的思考力を深めるためには、文部科学省の教育の中で、専門教育と同時に Liberal arts。要するに「教養」を重視しています。新しい視野を創造するということは、とても大切なことです。今日の社会貢献フォーラムに繋がってくると思います。文部科学省では「社会に貢献する」ということをはっきりとうたっています。この社会貢献の中には、「地域の中での貢献」、「産学連携」「国際交流」ということが掲げられています。まさにこの大学でやっていることですよ。自信を持って進めてほしいと思います。

私の領域では、日野原重明先生が100歳を迎えられました。聖路加国際病院で今も理事長として現役で働いておられます。なぜあなたは元気なのか、どうして頭がシャープなのかと尋ねられると「好奇心を持つことだ」と答えられます。常に好奇心を持つ。社会で起こっていることに対して、なぜと思うことを勉強したいと思う。好奇心がある間は頭がシャープに働いてく

る。実学的に経験していることを裏付けるためには、教科書以外の本を読まないといけない。自分のやっていることを問い直していかなければならない。

世界では、たくさん問題が起こっている(温暖化、東日本大震災、高齢者が増える、過疎化が増える、認知症が増える等)。それを流すのではなく、なぜそういうことが起こっているかを考えて発表していくこと。まさに今日は、いい機会です。こういうことをずっと続けていかなければなりません。これからの日本を、世界を皆さんが作っていくために、それを持たないといけません。

一つひとつが、創造的思考力、コミュニケーション能力、ストレス耐性を強くしていく。これがまさに就業力育成支援事業です。学長室でディスカッションしている中で、この大学で素晴らしいと感じたことは、70%以上の人がボランティア活動をしているということです。これがこの大学の大きな特長です。これを教育に活かしていこうということで、就業力育成支援事業の基盤に取り込みました。今年度で2年目に至っています。就業力育成支援事業の中では、皆さんの弱みを克服していくこと、人間的な力・社会性をつけていくことをボランティア活動を通して教育していくことに力を入れています。

ボランティアは、キリスト教の中では奉仕していくという気持ちで、欧米の人は小さい時からすでに持っている。しかし、日本ではまだ新しい。ボランティアでは、ホスピタリティが大事です。語源は「奉仕・もてなし」。病院＝ホスピタルとなっていますが、本質は繋がり・出会いを通しての支え合い、そういう中でコミュニケーション能力やストレス耐性をつけていくということ。そういうことは、早ければ早いほど力がつくわけです。早くからやっていると刷り込み(インプリンティング)が早く起こっていく。看護学部の方は、患者を対象にした教育で1年から実習に出ていると思いますが、大学全体のインターンシップは3年からの取り組みとなっています。これを早くからやろうということでプレ・インターンシップという取り組みを行っているわけです。早ければ早いほど刷り

込まれていきます。

就業力育成支援事業は今年度で廃止になりますが、今度は九州と沖縄のグループの中で、お互いが力を合わせて高め合っていきたいと思いますという方向で進んでいます。看護学部のケアリングアイランドと同じです。ワーキンググループに小松教授も入って一生懸命やっています。ブレ・インターンシップは大切なことです。看護学部では、ケアリングアイランドで学生コンソーシアムが立ち上がっています。学生同士が一緒になって高め合っていくことができます。

今回は、ボランティアのたくさんの発表があるようですが、その中でも「チームひまわり」の東日本大震災復興支援ボランティア活動は、大変嬉しいことです。この3月に3名の学生を派遣するという報告を受けました。ぜひ現地で見てください。この経験が自分の中で非常に大きなものになって、大学生活の中で何をしなければならぬかを考え、そしてまた意欲が出てくるし、しっかりとした方向性が出てくる。是非それを多くの人に伝えてほしい。

そして、就業力育成支援事業でもう一つ大切なことに海外語学演習があります。今グローバル化が進み、そしてボーダレスになっています。そこでは英語がベースです。そういう教育が就業力の中で、単位化されたということは非常に大きいことです。是非それを今後発展していつてもらいたい。

この大学は、アジアに非常に近いということ。交換留学として大邱韓医大学校、南京師範大学、三育大学校、北京中医薬大学が本学と交流しています。英語だけではなく、韓国語・中国語を理解して話せるようにならないといけない。大学のランキングの中で、海外からどれだけ留学生が来ているかという調査があります。日本は極めて少ない。そんな中で、東大も含めて9月に開学しようとする動きがあります。海外の大学は9月が入学日になっていますから、それに合わせて海外の学生を増やそうとしています。大学教育のいわゆるグローバリゼーションが進んでいるわけです。そういう中で海外語学演習は、大きな役割を担っています。是非これからも進めていただきたいと思っています。

今日の社会貢献フォーラムは、一つひとつが

意味のあるテーマばかりです。学生の皆さんにはしっかり報告してもらいたいと思います。

最後に時間がありますので紹介をいたします。3月6日に本学は、開学20周年を迎えます。附属研究所が新しくできました。皆さんはもう入ってみましたか。社会貢献・ボランティア支援センターが立派にできています。附属研究所の中には、三つの附属センターがあり、山本作兵衛氏の展示室もできています。またアジア地域交流センターもあり、ポリコムも入りました。皆さん、ポリコムとはわかりますか。要するにテレビ会議ができる最新の設備です。3月6日にライブも実施する予定ですので、是非見ていただきたい。そして、これらを皆さんがこれから活用しないとイケない。これらの設備は、この6年間、大学・職員・学生が一生懸命頑張ってきた成果が認められて作られたものです。

3月6日13時から開所式、そして記念式典があります。本日、開学20周年の記念誌を鬼崎教員理事からいただきました。素晴らしい記念誌です。これは、大学の次の10年の発展の道しるべになります。堀内さんに題字を書いていただいた「ひらく夢」。夢という言葉は、私も大好きです。私は70歳になりますが、これまできつい時ほど夢を描いて頑張ってきました。常に小さいことでも大きいことでも夢を描いていく。そして夢が成功したらものすごく嬉しいことで、それが励みになります。高い志を持って頑張っていく。そのためには、コミュニケーション能力、ストレス耐性を身につけなければならない。創造的思考力を身につけなければならない。大いに頑張って、いい大学にしていきたいと思います。

活動報告 1. 社会貢献論演習

(1) 街灯増設の援助

門脇和宏（社会福祉学科1年）、山崎新之介（看護学科1年）

私たちは、社会貢献論演習の授業の中で田川について考えました。そして、私たちは田川の治安の悪さに着目し、少しでも犯罪を減らすために街灯を増やす活動に取り組むことを決めました。

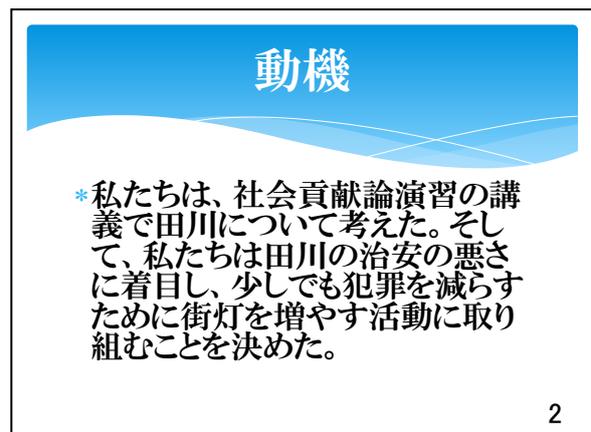
そこで、福岡県立大学に在籍する1年生から4年生まで全学年の講義でアンケートを行い、街灯がどこに必要だと感じているのかを調査しました。調査方法は、街灯が必要だと思う場所を地図上に複数箇所マークしてもらう方法です。アンケートの配布数は560枚で、そのうち有効回収数は404枚でした。

アンケートの結果を説明していきます。地図をご覧ください。回答の票数が1～9票の通りを紫、10～19票は藍色、20～29票は青、30～39票は緑、40～49票は黄色、50～59票はオレンジ、60票以上を赤で表示しました。

学生が一番多く街灯を欲している場所は、赤の通りです。トライアルに向かう道を見ると、赤の通りは全体の15.1%（61票）を占めていました。また、伊田駅に向かう通りでは、赤の通りが全体の19.8%（80票）ありました。

これらの結果から、この二つの場所への街灯設置が必要であることが考えられます。また全体としては、トライアルへ向かう通り、伊田駅に向かう通りの飲み屋街周辺に街灯がほしいという意見が多く挙がっていました。

今回のアンケート結果は、県立大学周辺安全対策検討委員会に提出しました。この調査の結果を活かして、より効率的な街灯の設置をしてもらいたいと思っています。県大生が安心して暮らせるような環境になっていくことを私たちは希望します。



実際に行ったこと

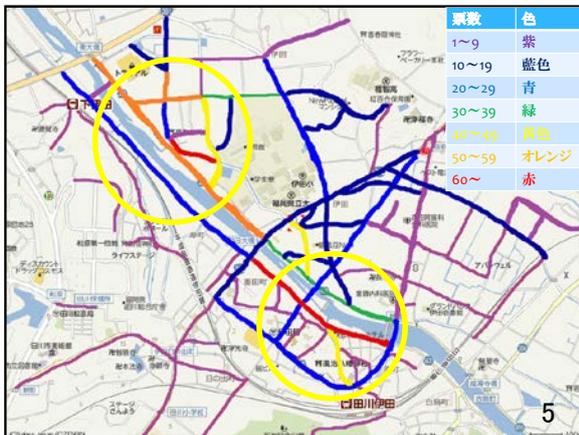
- * 全学年を対象にしたアンケートを行った。
- * その結果を街灯の増設を行っている「県立大学周辺安全対策検討委員会」に提出した。

3

アンケート

福岡県立大学に在籍する1年生から4年生までの講義でアンケートを行い、街灯がどこに必要だと感じているのかを調査した。調査方法は街灯が必要だと思う場所を地図上に複数マークしてもらった。集計枚数は560枚で、うち、有効票は404枚であった。

4



5

活動を終えて

今回のアンケートの結果は、県立大学周辺安全対策検討委員会に提出した。この調査の結果を活かして、より効率的な街灯の設置をしてもらいたい。県大生が安心して暮らせるような環境になっていくことを私たちは希望する。

6

ご清聴ありがとうございました。

7

活動報告 1. 社会貢献論演習

(2) 炭SAKU兵衛 ～マップづくり～

池崎泰庸、山本五月、玉野宏幸、小林優太（社会福祉学科1年）

幸田莉子、田中美里、橋本佳奈、羽根永里子、吉海右京（公共社会学科1年）

濱田香澄（看護学科1年）

私たちは、この県立大学がある田川周辺の店舗情報等を記載したマップ作成を行いました。そして、そのマップに「炭SAKU兵衛（たんさくべえ）」と名付けました。

この「炭SAKU兵衛」マップの名前の由来ですが、田川を探索すること、田川は炭鉱のまちという歴史があること、そして、昨年、世界記憶遺産に認定された作品の作者である、炭鉱記憶画家の山本作兵衛さんのイメージが強いことを融合して考えました。探索の「探」の字を炭鉱の「炭」にして、「索」を世界に共通する田川ということで「ローマ字表記」にして、最後に「作兵衛さん」の「兵衛」をつけました。

社会貢献論演習の授業では、田川のまちを探索してみて、普段、気付くことがなかったまちの魅力を知ることができました。マップ作成の動機は、私たち自身が住むこの田川のことをもっと知っていかなければならないし、知る責任があり、学生のみみんなに発信していかなければならないと感じたことが一番です。

マップ作成の範囲は、田川全体の地図を作ることができれば良いのですが、今回は学生向けに作るので、県立大学を中心としたものにしました。

より細かく情報を書き込むために、四つに分割しました。情報源は私たちの口コミを中心に、学生が活用できるように工夫をし、手書きやオリジナルアイコンで作成することによって、学生により身近で手に取りやすいようにしました。

作成にあたって、まずはインターネットから県立大学周辺の地図を取り込み、必要な範囲を選択して不要な部分を編集でカットしました。その地図を四つに分割して、一つのエリアを2人程度で担当し、主に学生同士の口コミを元にして、現地調査に行きました。調査後、全て手書きで道路や店舗の情報を書き込みました。

マップ作成が終わり、今後の展開としては、県立大学の学生に配布したいと考えています。そして、手にとってくれた学生が田川について新発見し、今まで持っていたイメージを変え、田川のまちをもっと好きになるきっかけを作ることができればいいと考えています。住んでいる地域を好きになることによって、その地域に貢献したいという気持ちも強くなるのではないのでしょうか。

この活動を通して、私たちは様々なことを学び、感じることができました。学生の視点から見ると、田川は今便利とは言いきれないのが現状です。でも、その現状を変えるのは自分たち次第であることを学生に知ってもらいたいと感じました。また、私たち自身もマップを作成する過程で、田川をもっと知っていきたいという探究心が生まれ、強くなっていきました。

社会貢献というのは、色々な形があると思いますが、このマップ作成もまちの活性化の一つであるし、また、他の人の意識にも繋がっていくこと自体も一つの形ではないかと思っています。

Let's **田川**
を

炭SAKU兵衛

～マップづくり～

社会福祉学科
池崎泰鷹、山本五月、玉野宏幸、小林優太
公共社会学科
幸田莉子、田中美里、橋本佳奈
看護学科
濱田香澄

1

炭SAKU兵衛とは？

田川探索
+
炭鉱のまち
+
山本作兵衛さん
↓

炭 (探) **SAKU** (索) **兵衛**

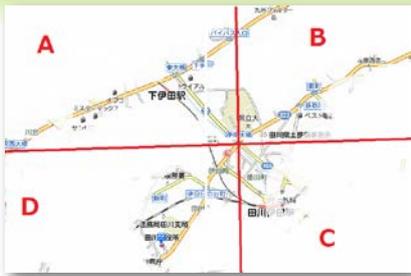
2

作成の動機

実際に田川を探索
↓
街の魅力に気づき
↓
田川をもっと知りたい！！
(知る責任がある)
↓
マップを作ろう

3

作成範囲



4

作成方法

- 作成範囲を四分割
⇒ 四つのグループに分かれて
より正確で詳細な地図を
- 学生のロコミ情報中心
- 手書き (カラー)
- オリジナルアイコン作成

5

作成過程

1. インターネットから地図取り込む
2. 必要な部分を抜粋
3. 分割後に編集の役割分担
4. 現地調査
5. マップ作成開始

6

マップの特徴

- ◎ 坂道情報
- ◎ 持ちやすいポケットサイズ
- ◎ 一枚に広げたり、折りたたんだりできる
- ◎ 製作者からのコメント付き
- ◎ 生活情報満載！

7

今後の展開

県立大の学生にマップを配布
 ↓
 田川のまちを知るきっかけ
 イメージを変える
 ↓
 地域の社会貢献を意識

8

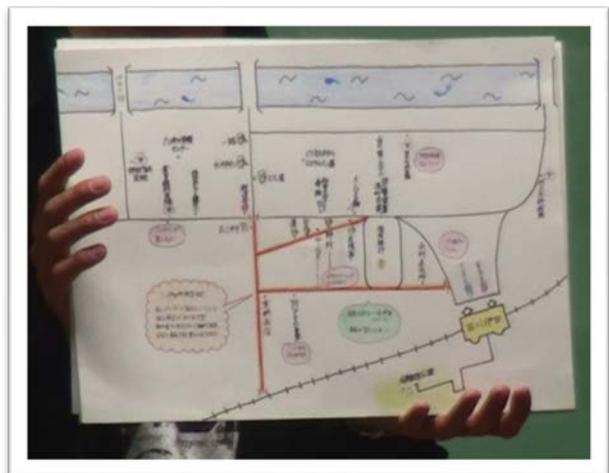
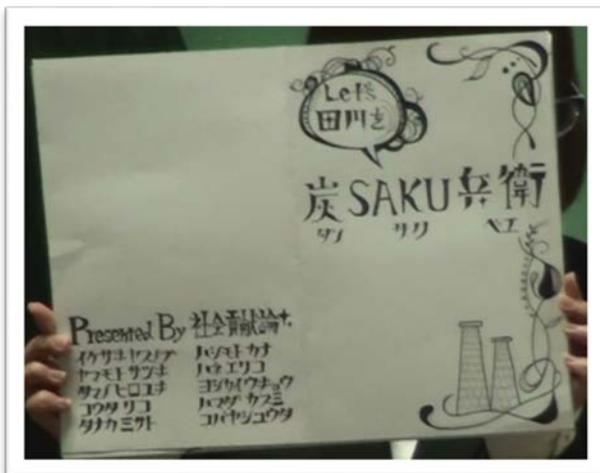
まとめ

- ◆ 住みやすい街にするのは自分たち次第
- ◆ 田川をもっと知っていきたいという探究心が生まれた
- ◆ 社会貢献に対する新たな視点

9

ご清聴ありがとうございました！

10



活動報告 1. 社会貢献論演習

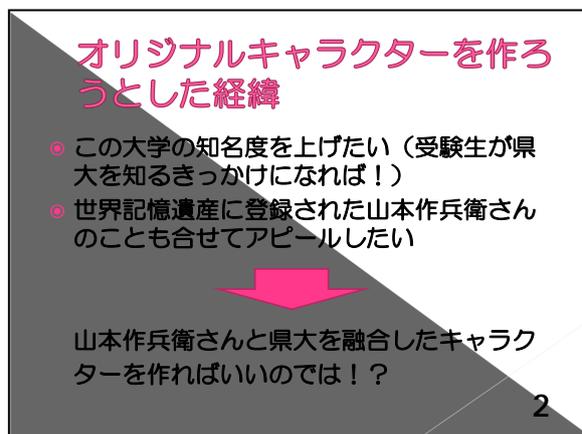
(3) オリジナルキャラクター作成にあたって 園田梨奈、松永典子（公共社会学科1年）

私たちは社会貢献論演習の中で、福岡県立大学のオリジナルキャラクターを作るという取り組みを行っています。このような取り組みを行うことになった理由の一つとして、全国の人（特に受験生）にこの県立大学をもっと知ってもらいたいということがあげられます。更に、昨年の5月にユネスコの世界記憶遺産に登録された炭坑画の作者でもある、山本作兵衛さんについても知ってもらいたいという思いが強くなります。この世界記憶遺産に登録されたということは、非常に素晴らしいことです。しかし、地元の友人等に聞いてみても、山本作兵衛という人を知る人はまだまだ少ないように感じています。そこで、今回のオリジナルキャラクターは山本作兵衛さんに因んだものにしたいと考えました。私たちは、オリジナルキャラクターを作るにあたって、作案を県大生から募ろうと考えました。そこで出てきた疑問として、県大生は大学のキャラクターを作ることをどう思っているのだろうか、ということです。そこで、県大生を対象にアンケート調査を実施しました。対象者数は1年～3年の560名で、有効回収数は560名と、回収率は100%に達しました。

まず、福岡県立大学のオリジナルキャラクターを作ることに、大変良いと思うまたは良いと思うと回答した人の割合は84.9%と大変

高いことがわかりました。キャラクター作成活動に是非参加したいと回答した人は60.9%と半数を超えており、この活動に対して高い関心がある人が多いという結果が得られました。キャラクターの活用方法については、グッズを作るが最も多く半数を占めていました。その他としては、着ぐるみを作る、パンフレットに載せるという意見がありました。しかし、一方で、作兵衛さんの品格を下げることになるのではないかと意見もみられました。最後に、商品化した際に一番欲しいと思うものについては、1位がタオル、2位がお菓子、3位がストラップとなっていました。

今回のアンケート調査により、多くの学生がオリジナルキャラクター作りに好意的であることがわかりました。そして、キャラクターが誕生した際には、このアンケートで得られた結果を基に、キャラクターの活用法を考え、商品化に向けて動いていきたいと考えています。この活動は、現段階では形あるものにはなっていません。この発表で活動を終えるのではなく、社会貢献論演習の授業が終わってからも、キャラクターを誕生させるという一つのゴールに向けて活動を続けていこうと考えています。そして、必ず福岡県立大学のオリジナルキャラクターを作って皆さんにお見せしようと思います。



コラボキャラクターの例



東京理科大学のキャラクター
「坊っちゃん」

夏目漱石の小説「坊っちゃん」の主人公が卒業した学校であることから作られた。学生、教職員からデザインを選出。平成17年

3

坊っちゃんの現在



広報キャラクターとして活躍中

4

アンケートの実施

- そもそも、県大の人はキャラクター作成についてどう思っているのか。
- 自分たちの活動を学生に知ってもらった上で協力してもらいたい

県大生へのアンケート調査実施

5

調査の詳細

- 調査対象：福岡県立大学の1年～3年(560名)
回収枚数560枚 回収率 **100%**
- 調査期間：平成24年1月25日～2月2日
- 調査方法：アンケート法

6

調査項目

- 福岡県立大学のオリジナルキャラクターを作ることについてどう思いますか？
- この活動に参加してみたいですか？
- キャラクターが出来たらどのように活用するべきだと思いますか？
- キャラクターを商品化した際に一番欲しいと思うものを挙げてください。

7

<学科>

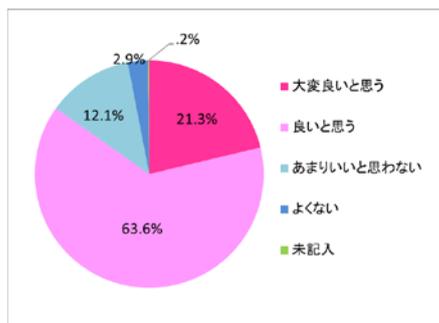
| | 人数 | % |
|------|-----|------|
| 公共社会 | 161 | 28.8 |
| 社会福祉 | 123 | 22.0 |
| 人間形成 | 131 | 23.4 |
| 看護 | 145 | 25.9 |

<学年>

| | 人数 | % |
|----|-----|------|
| 1年 | 237 | 42.3 |
| 2年 | 246 | 43.9 |
| 3年 | 77 | 13.8 |

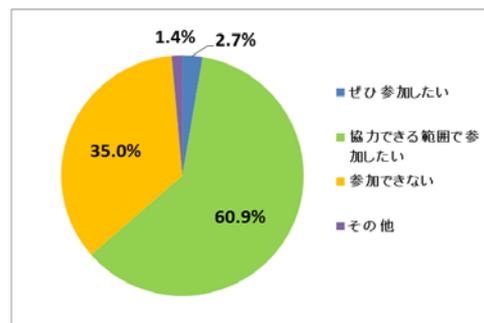
8

作兵衛さんと福岡県立大学 コラボキャラクター作成について



9

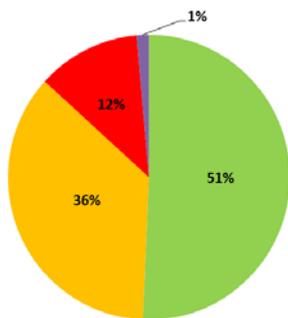
この活動に参加したいか



10

キャラクターの活用方法

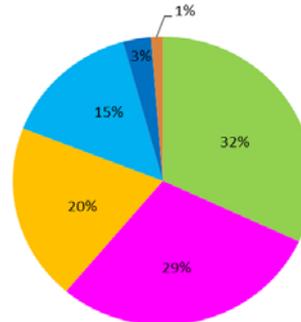
■グッズを作る ■行事に参加させる ■ホームページにのせる ■その他



11

商品化の際に欲しいもの

■タオル ■お菓子 ■ストラップ ■バッグ ■Tシャツ ■文具類



12

考察

- 賛成が85%と多くの学生がキャラクター作りに好意的である
- 協力できる範囲で活動に関わりたいという意見が多く、関心の高さが伺える



今後、キャラクターの作成に向けて動くにあたっての重要な意見！

13

今後の活動予定

- キャラクター案を募集する（県大生）
- キャラクターが決定したら、今回のアンケートの結果に基づき、キャラクターの活用を検討する。

14

活動報告 1. 社会貢献論演習

(4) 伊田駅の待合室について

小泉摩利子、善生あやめ（公共社会学科1年）

今回は、社会貢献論演習という授業をきっかけに行うこととなった、伊田駅の待合室改善について発表します。

私たちは、昨年12月に社会貢献論演習の中で、2週にわたり伊田駅の清掃活動を行いました。天井のほこり取り、タイル磨き、ゴミ拾い等を行いました。伊田駅を清掃した率直な感想は、ゴミのポイ捨てが非常に多く、全体的に汚れている、暗くてさみしい雰囲気の駅でした。

またエレベーターがなく、高齢者や障がいを抱える方には、非常に使いにくい環境にあり、駅のホームに設置されている待合室も電車が停車する位置と離れたところがありました。様々な改善課題を発見しましたが、伊田駅を地域の方、学生、そして山本作兵衛さんの効果で増加している観光客の方たち等、より多くの方が心地よく使える環境にしようという思いから、今回は伊田駅の待合室の改善というテーマに取り組み、私たちなりの提案を行いたいと思います。

伊田駅の待合室の課題を私たちで検討した結果、ホームにある待合室の改善と、改札前の空きスペースに新たな待合室を設置してはどうかという二つの課題が浮かび上がりました。そこで、普段、駅を利用する人の意見を踏まえた提案を行いたいという思いから、福岡県立大学生を対象にアンケートを実施しました。アンケートの有効回収数は566名、有効回収率は98%と高い回収率を得ることができました。

アンケートの結果、学生の多くが買い物や帰省に電車を利用していることがわかりました。また、電車の待ち時間は、どの学年も5~10分が最も高い割合を占めていました。次に、待合室の認知度ですが、2・3年生では7割を超えており、全体でも6割の学生が待合室を認知しているという結果でした。しかし、待合室を認知

している学生のうち、「利用したことがある」と回答した割合は、全体で3割未満と比較的低い割合でした。

今後の待合室を改善するにあたっての質問項目では、「わからない」と回答した学生が何れの学年も最も多く、次に「今ある待合室の改善してほしい」という意見が高い割合を占めていました。「今ある待合室を改善してほしい」と回答した学生の具体的な意見としては、「空調設備を整えてほしい」という意見が最も高い割合を占めていましたが、「室内を明るく保ってほしい」「ゆったり座ることのできる椅子やソファを設置してほしい」という声もありました。また、「改札前の空きスペースに新たな待合室を設置してほしい」と回答した学生の具体的な意見は「お茶を飲んでゆっくりできるスペースの確保」が高い割合を占めており、次いで「地域の情報が得られる」が高い割合を占める結果となりました。

今後は、アンケート結果に表れたように、ホームにある待合室の改善とゆっくり時間を過ごすことのできる待合室の設置を提案したいと思います。

ホームにある待合室の改善については、空調設備を整え、椅子やソファを置き、電車が来る前の数分間を快適に過ごせる空間にしてはどうかと考えました。また、分煙環境を設ける必要性もあるのではないのでしょうか。

新たな待合室の設置については、観光客の方が地域の情報を得られたり、学生が気軽に立ち寄り、お喋りをして過ごせる空間にしてはどうか。

以上で私たちの伊田駅の待合室改善における提案を終わります。



伊田駅の待合室について
 福岡県立大学 公共社会学科
 1年 小泉摩利子
 養生あやめ

1

この活動を始めるきっかけ

- ・社会貢献論演習で行った清掃活動

＜気づき＞

- ・ゴミが散らばっていてポイ捨てが多い
- ・駅の汚れがひどい
- ・暗くさみしい雰囲気を感じた
- ・ホームの待合室の位置が分かりにくい
- ・高齢者や障がい者の方が利用しにくい

2

待合室作り その①
 今ホームにある待合室の改善

＜具体策＞

- ・ゆったり座ることのできる椅子やソファを備える
- ・空調設備を整える
- ・本や雑誌を置いておく
- ・室内を明るくする（照明や装飾などにより）
- ・自動販売機を置く

3

待合室作り その②
 改札前の空きスペースに新たに待合室を設置する

＜具体策＞

- ・地域の情報が得られるようにする(掲示板やチラシなどで)
- ・お茶を飲んでゆっくりできる
- ・お土産を売っている
- ・貸会議室がある
- ・イベントなどができる
- ・田川の歴史(炭坑や山本作兵衛さん)の展示コーナーを設ける

4



アンケート 対象および方法

- 調査対象 福岡県立大学1～3年（576名）
有効回収数566名（回収率98%）
- 調査期間 平成24年1月26日～1月31日
- 調査方法 アンケート法

7

調査項目

- 問1 学年
- 問2 性別
- 問3 電車通学かどうか
- 問4 電車の利用頻度
- 問5 電車の利用目的
- 問6 電車の平均待ち時間
- 問7 待合室の認知度
- 問8-1 待合室の利用経験 問8-2 待合室の利用頻度
- 問9 今後の待合室について
- 問10 現状のホームの改善案
- 問11 新たな待合室にほしいもの

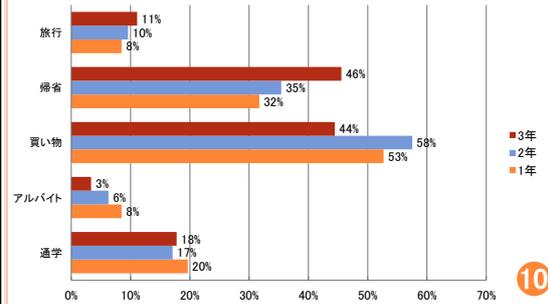
8

アンケート実施の様子



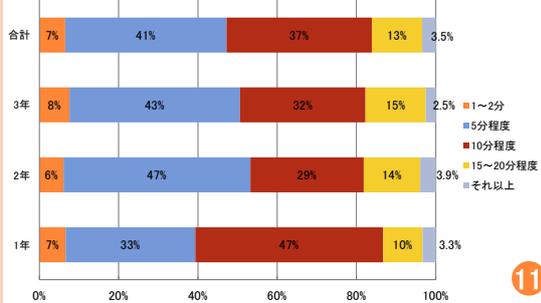
9

電車の利用目的（複数回答）



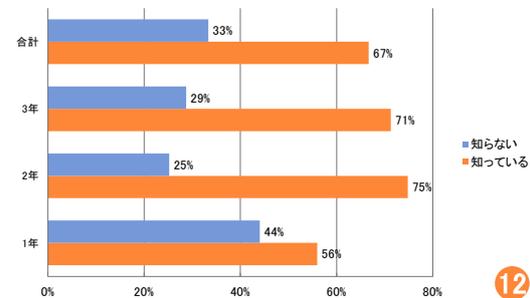
10

電車の待ち時間

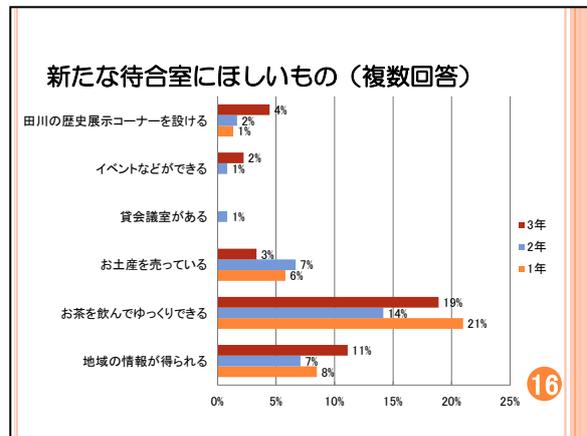
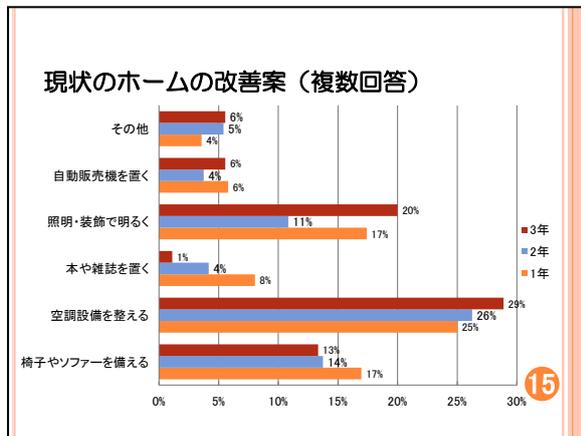
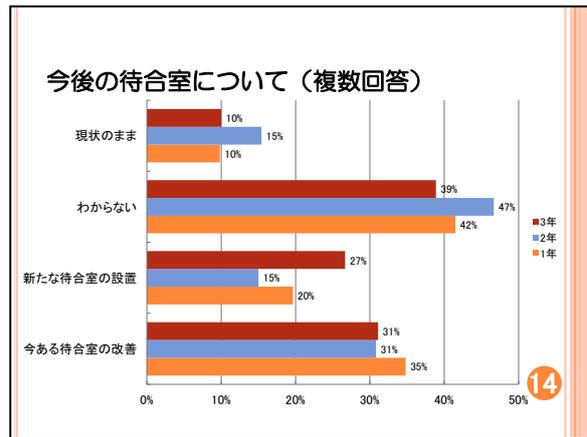
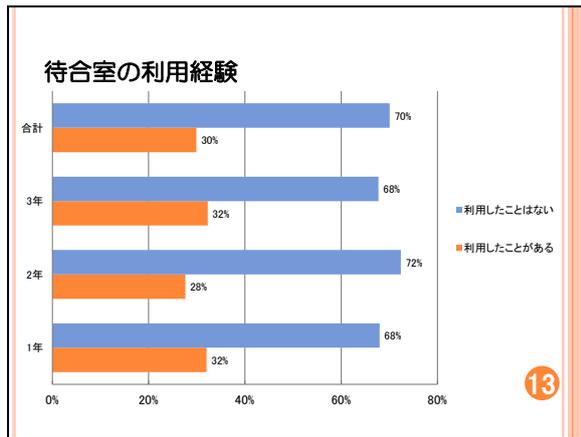


11

待合室の認知度



12



私たちの提案

よい駅にするにはどんな待合室がいいか。

- ① 今ある待合室の改善
 - 空調設備を整え、椅子やソファをおき、電車が来る前の数分間を快適に過ごせる空間
 - 分煙環境を設ける必要性
- ② 新たな待合室の設置
 - 観光客の方が地域の情報を得ることができる
 - 学生が気軽に立ち寄りお喋りをして過ごせたりすることができる

17

ご清聴ありがとうございました。

18

活動報告 2. チームひまわり（東日本大震災関連ボランティアチーム）

被災地支援に向けての取り組みと今後の活動について
阿部巧（公共社会学科2年）

本日は、被災地支援に向けての取り組みと今後の活動についてお話しさせていただきます。チームひまわりとは、本学の学生26名から構成される東日本大震災関連ボランティアチームです。「福島大から東北へ」をスローガンに掲げ、2012年9月後半に現地での活動実現を目指しています。このチームは、社会貢献・ボランティア支援センターの第49回運営部会において教育支援事業として認証され、これから活動を行っていくに当たり、様々な形で継続的に支援していただけることとなりました。

次に、チーム結成に至るまでについてお話しします。昨年10月2日、東京で行われた復興支援学生ボランティア車座シンポジウムに、社会貢献・ボランティア支援センター長の小松教授とともに参加しました。公立大学生による活動報告・問題提起の発表があり、私にとって同じ年代の学生達が自分達だからこそできることに真摯に向き合いながら、周りの人や仲間達との結び付きを強めていく姿が、とても印象的なものでした。このシンポジウムでの出会い・気づきにより、本学からも何か力になれることを探すべきなのではないかという思いが生まれました。また、翌月には北九州市立大学プロジェクト421の活動報告会が開催されました。北九州市立大学では、北方キャンパスの向かいにある陸上自衛隊と連携を取り、昨年9月に福岡県から被災地に行くことを実現していました。被災地では、ボランティアセンターを通じた活動の他にも、大学独自の活動も色々行っていたのが印象的で、今年の3月にも第二次派遣を考えているということを知ることができました。その後、本学の第3回教育改革セミナーの中でこれらの参加報告を行い、本学からも被災地ボランティアに行くチームを立ち上げることを発表しました。結成後は、チームひまわり企画第一弾とし

て1月18日に北九州市立大学の伊野憲治教授と学生3名を招いて勉強会を開催しました。その後、第1回チームミーティングを開き、それぞれのメンバーがどのような活動を考えているのかを話し合いました。2月にはメンバー同士がコミュニケーションを取り合い、団結するために伊田駅周辺の清掃活動を行いました。後日反省会を行い、他に清掃が必要な場所はなかったか、どういう道具が必要か等話し合いました。些細なことにもきちんと立ち止まって反省するというのを習慣化できるような活動に展開していきたいと感じています。

次に、北九州市立大学の第二次被災地派遣についてお話しします。3月9日～16日に北九州市立大学21名のメンバーとともに本学からも3名が一緒に活動することが決定し、事前の準備等に現在取り組んでいます。現地での活動内容としては、気仙沼市内の視察や3月11日の慰霊祭への参加、ボランティアセンターでの活動、福祉作業所での活動、小学校への訪問、自衛隊との活動も予定しています。派遣に向けて、陸上自衛隊との勉強会にも参加し、勉強会後には北九州市立大学の学生が作ってくれた芋煮をご馳走になり、参加者の間で交流を深めることができました。その後も、現地派遣までの期間に、猪倉での野外研修、自衛隊でのスコープやロープの使い方の研修、足立山登山、壮行会もかねた蕎麦の収穫祭への参加等、様々な活動が続いていきます。チームひまわりでは、「現地に行くために何ができるか」「現地でどのようなことが必要になるか」を考えながら今後も活動していきます。チームとしても個人としてもまだまだ未熟な部分が多く、何かとご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、私達にできることは可能な限りやっていきたいと思っておりますので、ご指導をお願いいたします。

東日本大震災関連ボランティアチーム チームひまわり

被災地支援に向けての 取り組みと今後の活動について



チームひまわり代表
公共社会学科 2年
阿部 巧

1

被災地支援に向けての 取り組みと今後の活動について

- I チームひまわりとは
- II チーム結成に至るまで
- III 結成してからの活動
- IV 北九州市立大学
第二次被災地派遣について
- V チームひまわりの
これからの活動について

2

I チームひまわりとは

福岡県立大学の学生26名から構成される、
東日本大震災関連ボランティアチーム。

「**福県大から東北へ!**」をスローガンに掲げ、
2012年の9月後半に現地での活動実現を目指す。

社会貢献・ボランティア支援センターの第49回運営
部会において教育支援事業として認証され、これから
活動を行っていくにあたり、継続的に支援をしてい
ただけることになりました。

3

II チーム結成に至るまで

4

2011. 10. 2 復興支援学生ボランティア 車座シンポジウム ～公立大学が連携した取り組み報告を中心に～

公立大学生による活動報告と問題提起

「震災直後の医大生としてのボランティア活動」
(福島県立医科大学)

「自治体連携・大学連携による支援」
(宮城大学/兵庫県立大学/大阪市立大学)

「いわてGINGA-NETの取り組み」
(岩手県立大学/静岡県立大学/愛知県立大学/
大阪府立大学)

5

2011. 11. 26 プロジェクト421 活動報告会

北九州市立大学では、北方キャンパスの隣にある陸上自衛
隊と連携を取り、9月に被災地へ行くことを実現。ボラン
ティアセンターを通じた活動の他に、独自の活動を展開。
また同時に、第二次派遣を考えているということを知る。



6

2011. 12. 7
福岡県立大学 第3回教育改革セミナー

10月2日のシンポジウムと11月26日の報告会に参加したことの報告。
また同時に、被災地ボランティアに行くチームを立ち上げることを発表。



7

Ⅲ 結成してからの活動

8

2012. 1. 18
チームひまわり企画第一弾
被災地ボランティア勉強会

昨年被災地に行かれた北九州市立大学の伊野憲治教授と学生の梅田幸江さん・田中佑佳さん・江口紗耶さんを招いて勉強会を行い、そこにチームひまわりからも参加。



9

2012. 1. 28・29
第1回チームミーティング

それぞれのメンバーがどのような活動を考えているかを話してもらうためにミーティングを行った。

- ・特産物の販売をしたい
- ・傾聴ボランティアをしたい
- ・募金活動をしたい
- ・支援物資を集め届けたい
- ・メッセージを送りたい
- ・現地の状況を伝えたい
- ・仮設住宅に住んでいる方の楽しみになることをしたい

10

2012. 2. 4
第1回伊田駅周辺清掃活動

メンバー同士がコミュニケーションを取りあい団結するための「チームづくり」ということも目的の一つとした。
また、後日反省会を行い、活動を振り返った。



11

2012. 2. 19
第5回 地域創生フォーラム
南三陸町 復興への道



12

IV 北九州市立大学 第二次被災地派遣について

期間：2012年3月9日～16日
メンバー：北九州市立大学 21名
福岡県立大学 3名
内容：気仙沼市内の視察・慰霊祭に参加
ボランティアセンターでの活動
福祉作業所での活動・小学校訪問
自衛隊との活動

13

2012. 1. 22 陸上自衛隊との勉強会

北九州市立大学が陸上自衛隊と行った勉強会に、チームひまわりから4名の学生が参加。
勉強会の後には、北九州市立大学の学生が作ってくれた芋煮をご馳走になり、参加者の間で交流を深めた。



14

2012. 2. 11 猪倉での野外研修



15

2012. 2. 15 自衛隊からスコープ・ロープの使い方を教わる



16

2012. 2. 23
足立山登山
2012. 2. 25
猪倉 蕎麦の収穫祭

2012. 3. 1
学生ミーティング

2012. 3. 3
猪倉 野外研修

2012. 3. 5
ミーティング

17

V チームひまわりの これからの活動について

チームひまわりでは、「現地に行くために何ができるか」「現地でどのようなことが必要になるか」を考えながら、今後も活動を展開していきます。
これからいろんな活動を行なっていく中で、チームとしても個人としても未熟な部分はまだ多く、何かとご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、私たちにできることはできる限りやっていきますので、ご指導をお願いします。

18

活動報告 3. 海外語学実習紹介

(1) 実習プログラムの概要

Gale Ian Stuart 准教授

皆さん、こんにちは。人間社会学部のゲイルです。今から2011年の海外語学実習について話します。

2011年の夏、福岡県立大学の学生16名がイギリスでの海外語学実習に参加しました。2週間のプログラムが単位として認定されましたが、10名の学生はさらに2週間イギリスに滞在することを選びました。

出発前に、学生のみなは福岡県立大学で私が指導した22.5時間の事前研修に出席しました。この事前研修の目的は、日常の英語、日本とイギリスの文化の違い、そして学生がイギリスで行う調査の準備です（これについては後で説明します）。2012年からは、事前研修も単位として認定されることになりました。参加する学生は全部で2単位認定されます。事前研修で1単位、2週間のイギリスでの海外語学実習で1単位です。

最初の2週間、16名の学生は美しく歴史のある二つの都市に滞在しました。一つは大学で有名なオックスフォード、もう一つは2000年前にローマが温泉を作ったバースです。オックスフォードでは、学生はオックスフォード・ブルックス大学のアパートに滞在し、バースではイギリス人家族の家にホームステイしました。学生は、2人か3人で一つのホストファミリーの家に滞在しました。学生とホームステイファミリーの皆さんが、強い絆で結ばれています。学生はイギリスで何をしたのでしょうか。

2週間のコースでは、二つの首都（イングランドの首都ロンドン、ウェールズの首都カーディフ）と8ヶ所の世界遺産（ストーンヘンジ、本初子午線のグリニッジ、去年ウィリアム王子とケイトさんが結婚した場所であるウェストミンスター寺院等）に行きました。またイギリスの大英博物館、バッキンガム宮殿、コッツウォルズと、たくさんのハリーポッターのロケ地(本

物の hogwarts 等)に行きました。

これらの場所は、とても興味深く教育的です。それでも、私たちの海外語学実習は学生の就業力の向上に焦点を当てています。2週間のコースで、学生は大学の1学期間の時間数と同じ22.5時間の授業に出席しています。この授業の目的は、教育や雇用、健康管理について話し合うこと、そして学生それぞれの調査です。

いつも、オックスフォード・ブルックス大学やバース大学の学生がALTとして参加し、1人のイギリスの学生が4,5人の日本の学生の手伝いをしました。このことによって私たちの学生は英語を改善することができ、そしてイギリス人の学生からデータを集めることができました。

それぞれの学生は、イギリスに行く前の事前研修で作った15の質問の調査票を基に調査を行いました。学生は、三つの題目から一つを選び、同じ質問がないように調査票を作りました。看護学部の学生はイギリスでの看護について、人間社会学部の学生はDVに対する社会福祉がイギリスの公民館について、それぞれ調査を行いました。インタビューされるイギリス人は、これらの領域の専門家でした。学生たちは、最新で詳細なデータを集めることができました。そして、レポートで日本の同じようなデータとイギリスのデータを比べることができました。

学生にはイギリスの小学生に教える機会がありました。このティーチング・プラクティスは、バースの公民館とイギリスの湖水地方にあるドウデイルズ小学校で行われました。4週間コースの学生は、ドウデイルズ小学校で2日間過ごし、授業を見学したり、イギリスの子どもに折り紙や書道、そして簡単な日本語を教えたりしました。とても楽しくて、みんなにとって有益な経験になりました。学生は、ビートルズのリバプールやジュラシックコースト、そしてシェイクスピアの生まれ故郷のストラットフォア

ド・アポン・エイボンを訪れました。

結論として、2011年の海外語学実習には三つの成果がありました。一つ目は、英語能力の改善、二つ目は役に立つ調査を行ったこと、三つ目は、就業力のための学校や公民館での経験です。実習によって、学生は自信や英語を勉強す

ることのモチベーション、そして将来海外で働くことや留学することへの興味を持つことができました。

では、今から、学生に話してもらいます。

**Fukuoka Prefectural University
UK Programme
海外語学演習プログラム**



1



**海外語学演習プログラム
イギリス 2011年**

英語学習 + ホームステイ + 世界遺産 (8~11か所)

2週間コース 8月15日~8月29日
4週間コース 8月15日~9月12日

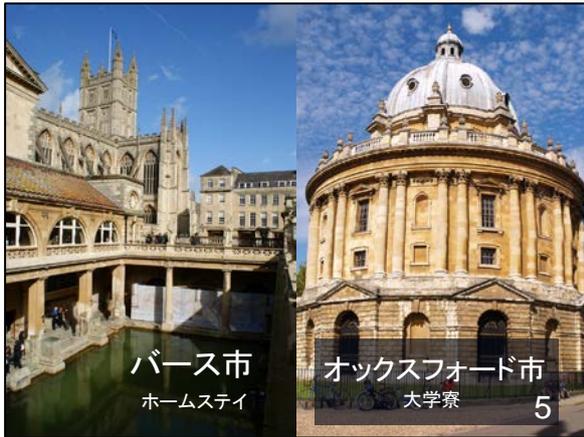
3

Pre-UK Preparation Course

- Language ("Survival English")
- Culture (UK vs. Japan)
- Research



4



バース市
ホームステイ

オックスフォード市
大学寮 5

ホームステイ

A photograph of a family of five people (two adults and three children) smiling and posing in a home interior, likely a living room or dining area.

ホームステイはイギリスの家庭生活を知る一番の方法です。ホスト・ファミリーは、日本人に慣れていて、親切でフレンドリーです。何年もホストファミリーをしている方もあります。基本的に各家庭に**2名**ずつホームステイ。

6

英国の観光 London

A photograph showing the London skyline across the River Thames, featuring the Houses of Parliament and the Big Ben clock tower.

7

英国の観光 Cardiff

A photograph of a group of people posing in front of a stone wall, likely a castle or historical site in Cardiff.

8

英国の観光 Stonehenge

A photograph of a group of people posing in front of the Stonehenge monument in a grassy field.

9

英国の観光 Greenwich (GMT)

A photograph of a group of people posing with the Prime Meridian monument in Greenwich, London.

10

英国の観光
Westminster Abbey



11

英国の観光
The British Museum



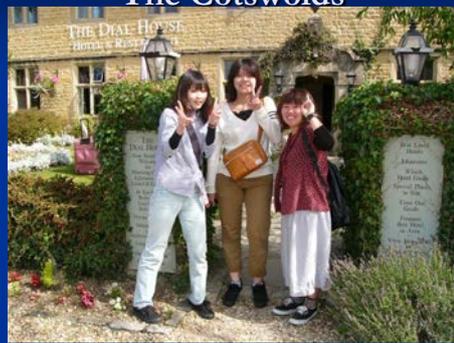
12

英国の観光
Buckingham Palace



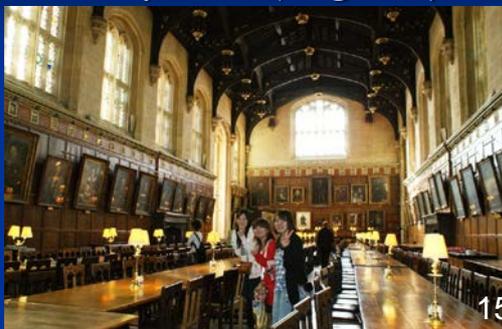
13

英国の観光
The Cotswolds



14

英国の観光
Harry Potter (Hogwarts)



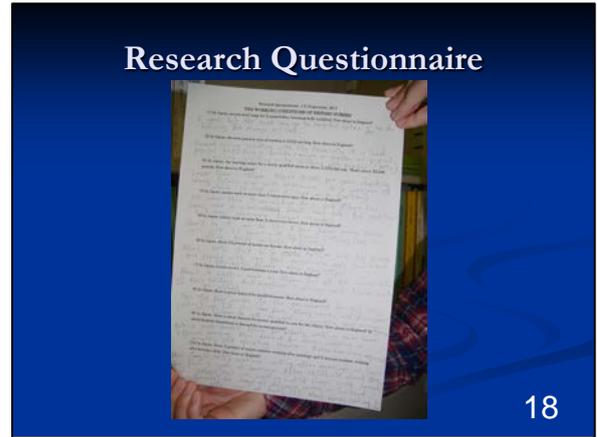
15

英語レッスン

- ALT(イギリスの大学生)と共に、4~5人の少人数グループに分かれて、効率的にあなたの英語力を伸ばします。イギリスの同年代の大学生と日本の文化やイギリスの文化について語り合いながら交流を深めることができます。



16



4週間コース



23

4週間コース



24

A Great Success!!!

- English language ability ✓
- Meaningful research ✓
- Professional experience ✓



25

Stuart Gale
Fukuoka Prefectural University, 2012

26

活動報告 3. 海外語学実習紹介

(2) 参加学生によるスピーチ

1) 松永綾香 (公共社会学科2年)

こんにちは、公共社会学科2年の松永綾香です。4週間のイギリス研修で特に印象に残ったのは、バースでの2週間のホームステイです。ホームステイは初体験で、学校の授業でしか英会話をしたことがなかったので、ホストファミリーと日常的な会話が成り立つのだろうかという不安がありました。しかし、実際にホームステイをしてみると、このような不安は自然と消えていきました。食事中や団らんの時間に、自分の生まれ育った町のことや日本の文化をつたないながらも自分の持っている語彙知識を総動員して話しました。すると、ホストファミリーも一生懸命理解しようとしてくれました。私がそこで実感したのは、相手に伝えたいという思いがあれば、たとえ文法や発音が間違っても伝わるといことです。間違ふことを恥ずかしいと感じる必要は全くないのだとわかりました。この研修ではいくつもの観光地を周り、たくさん感動をもらいました。昔からの形を大切に残してある建物や場所が多く、歴史に直に触れているという感覚がありました。プレミアム宮殿では日本人女性のガイドの方に案内をしてもらったのですが、その方は自分の仕事に誇りを持っていて自信に満ちあふれているように見えました。海外で活躍する日本人の方を目の当たりにして、憧れの気持ちを抱きました。私はこれまで大学卒業後は地元に戻って就職し、そのまま地元を根を下そうと考えていました。しかし、今回イギリス研修に参加し、自分の過ごしてきた環境とは異なる場所で普段できない体験や初めての体験をしたことによって、地元をこだわり続けるのはもったいないのではないかと考えるようになりました。新しい場所に出ていくことによって、自分の可能性のかけらを発見できること、人としての幅が広がることを身をもって感じる事ができたからです。これからはもっと広い視野で自分の進路について考

えたいと思います。今回の研修で、とても有意義な4週間を過ごすことができました。ナイジェル先生、ゲイル先生、そして研修に参加することに協力してくれた家族に感謝したいです。

2) 石原美菜 (社会福祉学科2年)

社会福祉学科2年の石原美菜です。私は幼い頃から英語が好きで、いつかは海外へ行って、その国の文化に触れ、多くの人と交流してみたいという夢がありました。その夢が大学生になってイギリス研修という形で叶えられたことをとても嬉しく思います。私は、またとないこの機会に多くの経験をする事ができました。私が一番楽しかったことは、現地の子どもたちとの交流です。10歳くらいまでの子どもたちに習字や紙風船、折り紙等の日本の遊びを教えました。私は10年間ほど習字を習っていて、いつか外国の人たちに習字の楽しさを教えることができればいいなと思っていたので、この日をイギリスに行く前からとても楽しみにしていました。久しぶりに筆を持ったためとても緊張しましたが、子どもたちにそれぞれの名前をカタカナで書いて見せると、とても喜んでくれたので嬉しかったです。また、バースの大学で私と同じ福祉を専攻している学生にイギリスの福祉について質問したことも、将来につながる良い経験になりました。今回は時間もなかったので、ドメスティック・バイオレンス (DV) についてのみに質問しました。DVへの対応は、日本とあまり変わりませんが、イギリスには同性愛者同士のDVの問題も顕在しているということがわかりました。日本での同性愛者同士のDV問題は潜在しているだけで、日本についても知らないことがたくさんあるのだと強く実感しました。このような海外の福祉については、インターネットで調べれば、すぐに入手できるかもしれませんが、しかし、現地の人々の声を直接聞くということはなかなかできないと思うので、本当に私

の人生の中でとても価値ある経験となりました。

3) 保月佳奈（人間形成学科2年）

人間形成学科2年の保月佳奈です。今回、私が海外語学実習に参加したいと思った理由は二つあります。一つ目は、私は将来海外で子どもたちのために働きたいと思っています。福祉が発展しているヨーロッパのイギリスで、中学校やコミュニティセンターの施設に通っている子どもたちと触れ合うことができるこの研修では、児童福祉について学べると思いました。二つ目は、同年代のイギリスの学生やホームステイの家族と交流することで語学力が身につくと思ったからです。実際にイギリスでの1ヶ月間の生活は、私にとって刺激的な毎日でした。中学生や大学生は自分の考えをしっかり持っており、視野がとても広く感じました。しかし、日本があまり知られていないこともわかりました。東日本大震災のことをとても心配してもらいましたが、日本全体が津波の被害を受けいていると思っている子どもたちがほとんどでした。また、ソーシャルワーカーの方とお話をさせていただく機会がありました。イギリスでは、里親制度・養育縁組が重視されていることがわかりました。私は、児童養護施設がもっと広がればいいと思っていたので、お互いの良い部分を尊重し合い、イギリスだけでなく世界に施設を広げていきたいと思いました。ホームステイ先の家族はとても優しく、私たちの語学力を高めるために、食事の間や食後の1時間を日本やイギリスの文化について会話する時間として設けてくれました。また、時にはテレビや映画を一緒に観てくれました。料理もイギリスの伝統料理を出してくれました。震災があった年に研修に行くということで、私は出会った学生やホームステイの家族に日本の印象やメッセージを書いてもらいました。日本の印象としては、お寿司や自動車産業の発展が多いことがわかりました。また、日本を激励するメッセージをたくさんいただきました。私は今回の研修に参加させていただき、自分の世界観を広げることができました。海外の福祉をさらに学びたいという思いと同時に、日本の福祉についてさらに勉強していかなければならないと思いました。また、英語で会話する楽しさを感じることができ、もっとスキルアッ

プしていきたいと思いました。最後に、イギリスに行かせていただいた大学、家族、イギリスでの研修を引率してくれたナイジェル先生、ゲイル先生に感謝しています。

4) 萩原オリエ（人間形成学科1年）

人間形成学科1年の萩原オリエです。私は、イギリス研修の4週間コースに参加させていただきました。4週間も海外に行ったのは初めてだったのですが、とても良い経験になりました。私は、印象に残った二つのこととお話しさせていただきますと思います。まず英語についてですが、研修に行く前は、自分の英語が通じるのか不安で仕方がなかったのですが、いざ行ってしまうと人に道を聞いたり、買い物をしたりと一つひとつ挑戦していくうちに、できることがどんどん増えていったのがとても嬉しかったです。ホームステイの時にホームステイ先の方が英語でジョークを言われた時、それを理解できたことがものすごく嬉しくて、私も少しは英語ができるのだという自信になりました。もう一つは私が調査したことについてです。私は、コミュニティーセンターという日本でいう公民館のようなところのスタッフの方に、インタビューをさせていただきました。自分一人だけで旅行していたら現地で働く人に詳しく話を聞くことはとてもできないことだと思うので、大変貴重な体験でした。現地の大学生の方が、ALTとしてサポートして下さったので、英語でのインタビューでしたが内容もしっかり理解できて、日本と比べて「ここはイギリスの方がいい」「こっちは日本の方がいい」等リアルに感じる事ができたので、自分のこれからを考えていく上でとても貴重な体験でした。今回の研修では、安心して海外に行き、普段経験できないことをたくさんさせていただきました。イギリスはとても素敵な国だったので、またもう一度いつか行きたいと思っています。ありがとうございました。

5) 早田清夏（看護学科2年）

看護学科2年の早田です。私はイギリス研修の2週間コースに行きました。2週間コースにした理由は、バイトの休みが取れないことと、日本食が大好きだからです。しかし、2週間の

研修で様々な場所に行って、多くの人と触れ合い、たくさんのことを学ぶことができたと思います。その中でも私は今回、グループディスカッションについて話したいと思います。先ほどゲイル先生に紹介していただいたグループディスカッションでは、イギリスの学生一人と各分野（看護学部は看護）のグループを組んで、それぞれのテーマについて話し合いました。その中でも医療制度の違いやイギリスの看護制度の違い、看護師の待遇等も全く日本と違いました。一番驚いたのは、イギリスの学生に「日本はなぜ外国人看護師を受け入れないのか」と言われた言葉です。たしかに今まで何気なく過ごしていました。その中で、私たちは外国人看護師を見たことがあるでしょうか。海外の人からは、日本は外国人の看護師を受け入れる体制がないという風に見えるようです。しかし、私は、そういう理由ではなく、日本語が難しかったり、日本の現状が英語に弱く海外に対応できていないからだと思います。今回のイギリス研修を通して、私は今後看護職で働いていく中で、外国人看護師という点で何か自分で職場を変えていけるのではないかとこの風を考えました。そのためにもまずは自分が英語力を上げなければ、相手とのコミュニケーションをとれないと思ったので、自分の英語力をもっと上げたいと思いました。今回の研修で、日本を客観的に観ることができたのですごく良かったです。ありがとうございました。

6) 高山美緒（看護学科1年）

私は、看護学科1年の高山美緒です。私は以前から海外について興味があり、学力を向上させるとともに、大学で学んでいることだけでなく、新しい発見ができたらと思い、研修に参加させていただきました。中でも私は家族が大好きなので、ホームステイについて話そうと思います。ホームステイでは、ホストマザーがおいしいイギリスの伝統料理を作って下さり、その間に私達日本人とホストファミリーで食卓の準備をするのが、いつの間にか日課になっていました。食事中は、私のつたない英語を理解しようとして下さり、日本に対しても関心を持って下さったため、楽しくコミュニケーションをとることができました。私達は、ホストファミリ

ーに浴衣と甚平をプレゼントしたのですが、とても気に入ってもらえ、私達が振舞った日本食もおいしく食べて下さり、日本とイギリスの文化の違いに触れることで、お互いの良さに気付くことができました。バंकホリデーでは、色々な所に連れて行ってもらい、家族で買い物に出かけたり、思い出作りがたくさんできました。家族の方がとても優しくだったので、もう一つの本当の家族ができたようで、2週間の毎日が宝物になりました。今回の研修を通して、英語を学ぶことに楽しみを感じるできるようになりました。また、自分自身の視野も広がったので、とてもよい人生経験になったと思います。また、私はJICA等の国際支援活動にも興味があるのでイギリスだけでなく、他の国々にも行ってみたいと思うようになりました。以上で、イギリス研修の発表を終わります。ありがとうございました。

<発表を行った学生の皆さん>



公共社会学科2年
松永綾香さん



社会福祉学科2年
石原美菜さん



人間形成学科2年
保月佳奈さん



人間形成学科1年
萩原オリエさん



看護学科2年
早田清夏さん



看護学科1年
高山美緒さん